

令和6年度 学力等調査の結果について

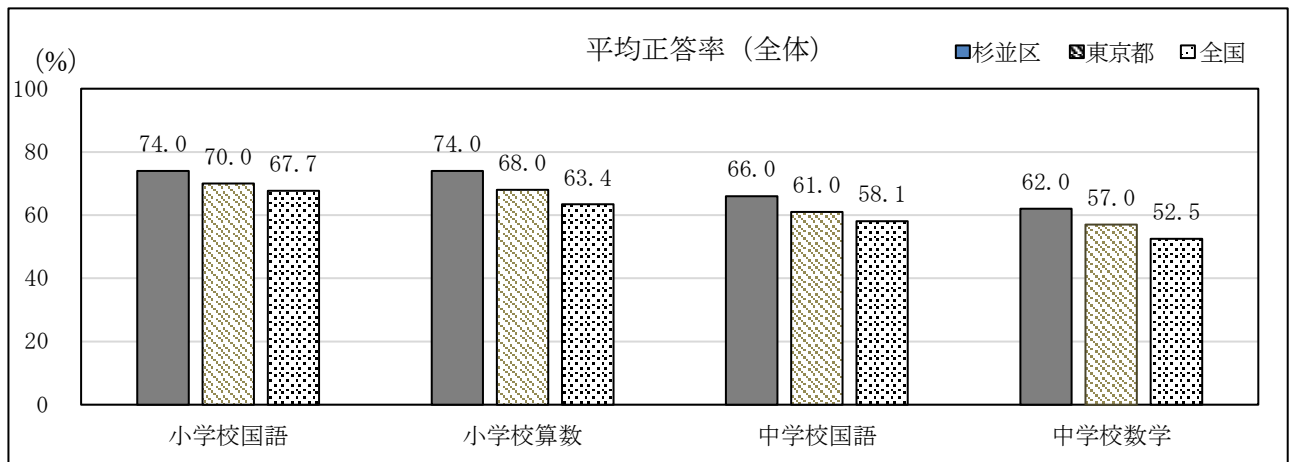
令和6年度に実施された全国学力・学習状況調査（文部科学省）について、杉並区立小・中学校の結果を報告します。

1 令和6年度 全国学力・学習状況調査（文部科学省）

目的	児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における教育指導の充実や学習指導の改善等に役立てる。
対象	公立、国立、私立小学校第6学年、中学校第3学年
調査内容	①教科に関する調査（小学校：国語、算数・中学校：国語、数学）（PBT調査方式） ②質問調査（MEXCBTを活用したCBT調査方式）
調査日	令和6年4月18日（木）（質問調査は4月10日（水）～4月30日（火）の間で実施。）

2 教科に関する調査結果

全ての教科における平均正答率において、東京都や全国よりも高い数値を示した。問題の内容を、生きて働く「知識及び技能」、未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」で分けた場合においても、東京都や全国よりも高い数値を示した。



平均正答率（観点別）

小		国語（知）	国語（思）	算数（知）	算数（思）
	杉並区	76.7	72.5	81.6	63.6
東京都	72.6	68.4	76.7	57.1	
全国	69.8	66.0	72.8	51.4	

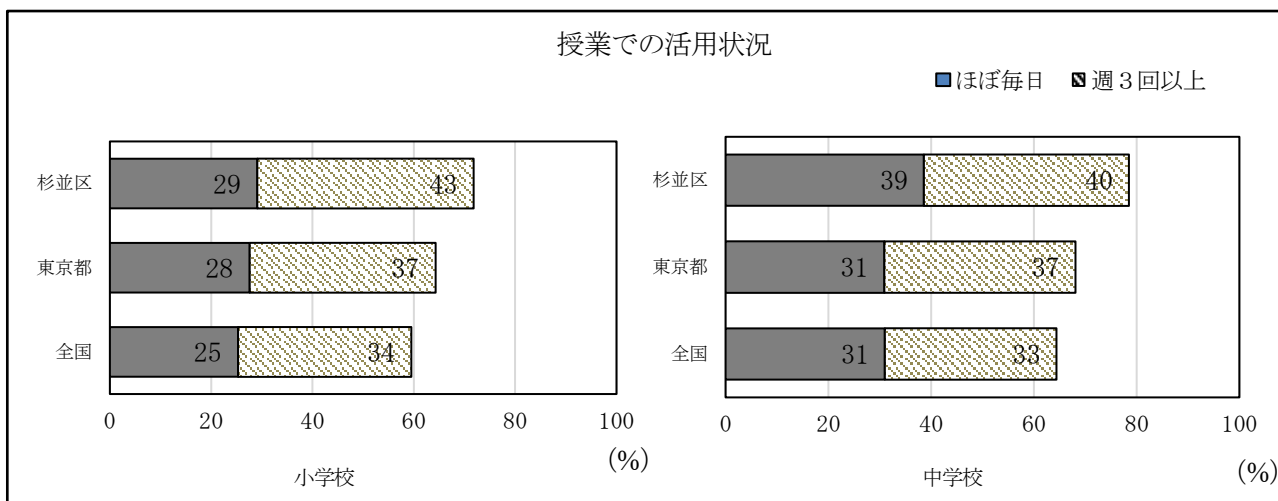
中		国語（知）	国語（思）	数学（知）	数学（思）
	杉並区	70.0	64.1	71.5	41.7
東京都	64.4	58.6	67.3	34.2	
全国	62.0	55.4	63.1	29.3	

（知）…知識及び技能 （思）…思考力・判断力・表現力等

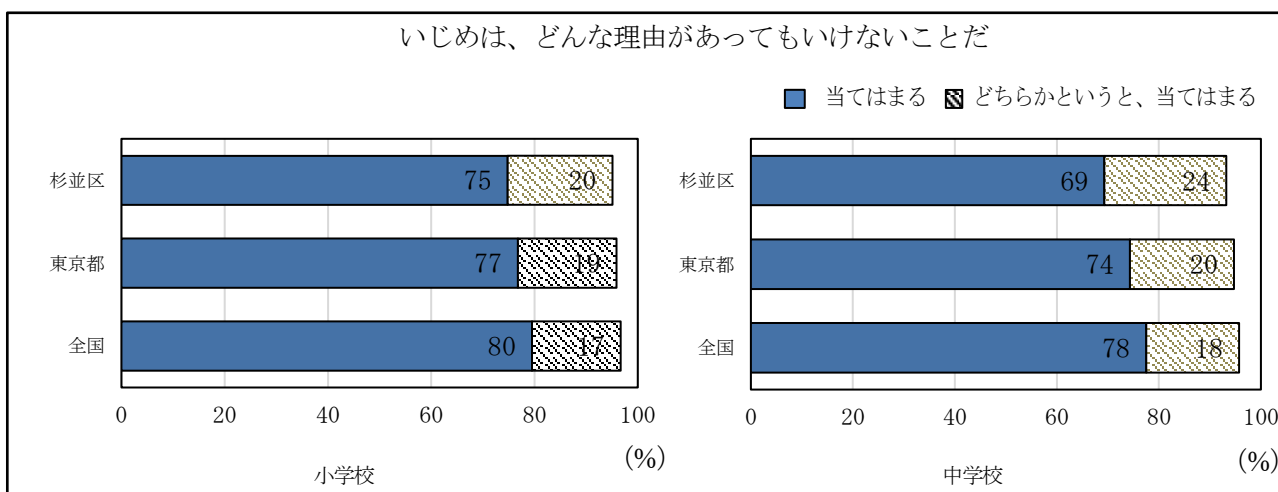
（%）

3 質問調査に関する調査結果

(1) 授業で「PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。」という質問に対し、「ほぼ毎日」「週3日以上」と回答した児童・生徒の割合は、東京都や全国を上回っている。



(2) 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだ」という質問に対し、「そう思う」、「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合は、東京都や全国との差はほぼ同程度ではあるが、強い肯定である「当てはまる」と回答した児童・生徒の割合は、東京都や全国を下回っている。



4 今後の取組

学校は、児童・生徒の思考力・判断力・表現力等の一層の育成に向け、児童・生徒が課題の解決に向けて自分で考え、自分の意見や考え方を分かりやすく伝えることを目指した学習活動を充実させるなど、引き続き授業の進め方や手だてを工夫していく必要がある。また、「考えをまとめ、発表・表現する場面でのICT活用」が多様な児童・生徒の学びの質を高めることから、教育委員会は、学校の要請による訪問型要請研修や、区の研究指定校などの優れた取組を行う学校の事例の紹介などを通して、ICT機器の効果的な活用実践を広げていくようにする。

質問調査の結果には、いじめ防止に関して憂慮すべき状況の一端が表れている。学校は、全ての児童・生徒に対し、いじめを生まない、許さない学校風土の形成に向け、いじめ防止教育、人権教育等をこれまで以上に強く推進していく必要がある。教育委員会は、教員対象のいじめ防止対策研修に加え、全区立小・中学校に対し、年3回のいじめに関する授業を令和7年度の教育課程に位置付けるよう示すとともに、小学校第4学年及び中学校第1学年に対し、弁護士と連携した「いじめ防止授業」の実施を検討していく。